

# MAX

# 取扱説明書

プロ用

このたびは、マックスねじピン打機スーパーネイラをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

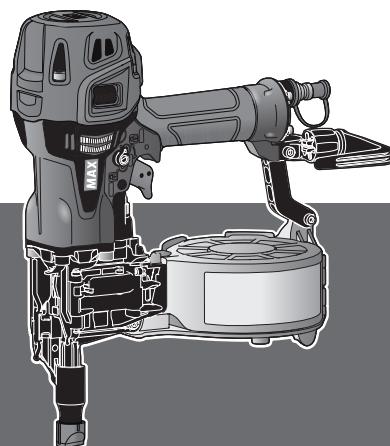
## ⚠ 警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。

この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。

マックスねじピン打機スーパーネイラ

# HN-40SP1

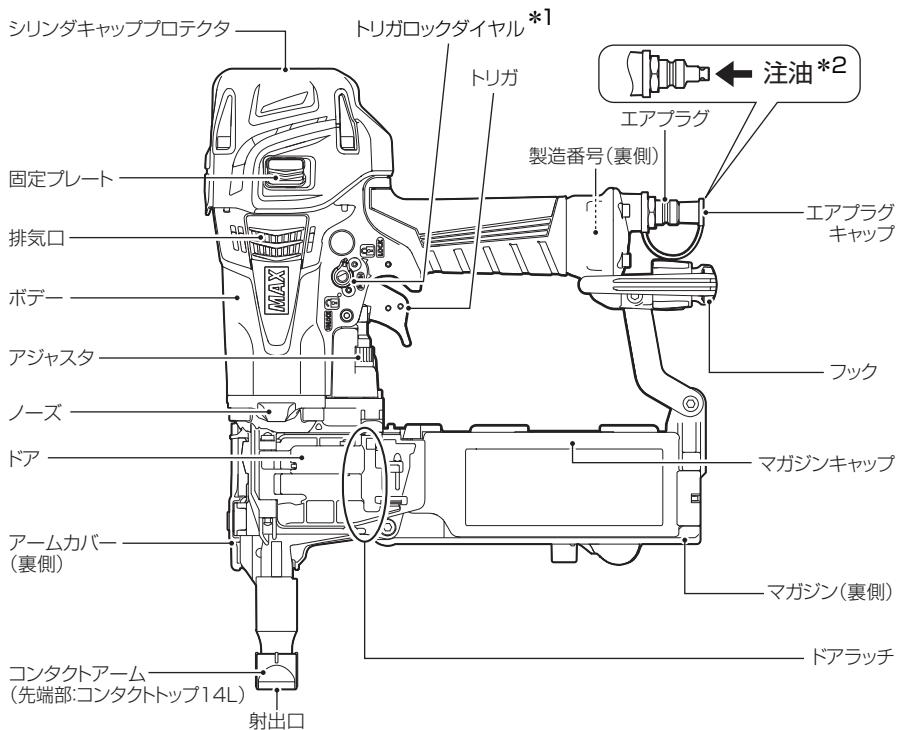


# 目 次

---

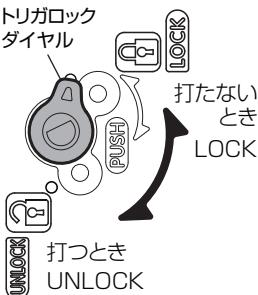
各部の名称	3
安全作業のために	4～8
安全装置について	9～11
仕様及び付属品	12
使用方法	13～17
ピンの装填方法	13,14
打ち方	14
プラスチック連結帯の切り方	15
フックの方向の変え方	15
コントラクトップの使い方	16
打ちこんだピンを抜きたいとき	17
ピン選定基準と打込深さ調整の目安	18～20
板金材を軽量形鋼に留めつけるとき	18,19
板金材と中間材を軽量形鋼に留め付けるとき	19
木材・合板を軽量形鋼に留め付けるとき	20
打込状態の確認と打込深さ調整の手順	21
配管についての注意	22
エアホースの接続	23
ピン詰まりの直し方	24
保守・点検	25,26
保証、アフターサービスについて	26
保証について	26
アフターサービスについて	26

# 各部の名称



## \*1 トリガロックダイヤル

押し回すことでロックとアンロックを切り替えます。

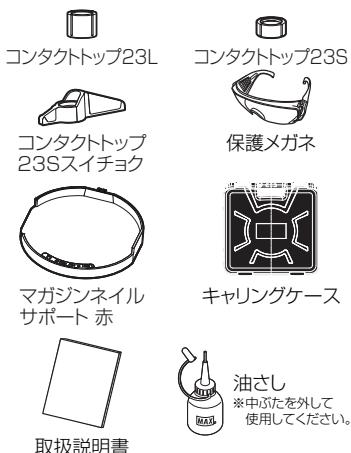


## \*2 注油

**△ 注意**  
指定オイルを注油する



## 付属品



# ⚠ 安全作業のために

本機は、板金もしくは合板等の木材を軽量形鋼(2.3~3.2mm)に留めることを目的としたピン打ち機です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながるおそれがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

## ■表示の意味について

ご使用上の注意事項は、**⚠ 警告**、**⚠ 注意**に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。



誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。



誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**⚠ 注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 絵表示について



この記号は「してはいけないこと」を意味しています。

この記号の中や近くの表示は具体的な禁止内容です。

## 作業前

### ⚠ 警告

使用的際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

ピン打作業をする時、打ち損じのピンがはね返り、眼に入ると失明するおそれがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。



防音保護具を着用する。

ピン打作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具(耳栓等)を着用してください。



作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。



# ⚠ 安全作業のために

## ⚠ 警告

**本機使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。**

本機は使用性能を向上させるため、使用圧力を従来のピン打機より高く設定しております。本機使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必ず必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと、異常燃焼をおこし、爆発の危険を伴います。

**本機を絶対に改造・分解しない。**

本機を改造・分解すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

**エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを厳守する。**

- ・トリガをロック（引けないよう固定）する。
- ・コンタクトアームに触れない。
- ・コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
- ・射出口を人体に向けない。

**指定ねじピンを必ず使用する。**

指定されたねじピンと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となります。  
(使用ピンは12ページ参照)

**作業場所を常に整理する。**

作業場所が乱雑だと、つまづくなどして思わぬ事故の原因となります。  
作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

# ⚠ 安全作業のために

作業中

## ⚠ 警告

### 使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は1.2~2.3MPa(約12~23kgf/cm<sup>2</sup>)です。対象物によりその範囲内で調整し、使用してください。2.3MPa(約23kgf/cm<sup>2</sup>)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じるおそれがあります。

### ピンを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。

### 射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。

また、射出口に手足等を近づけての作業は危険ですから絶対に行わないでください。

同時に打ち損じたピンが人に当たらないよう作業中はまわりの人々に注意をはらってください。



### 向い合わせのピン打ちは絶対にしない。

向い合ってピン打作業をすると、打ち損じたピンが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがあります。



### 射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、ピンがはねたり、それなりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険です。

### 機体の反発に注意する。

硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

### 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物(例:シンナー、ガソリン等)のそばで使うとピン打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴います。

# ⚠ 安全作業のために

## ⚠ 警告

移動するとき、作業を中断するとき、また、フック使用時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には、思いがけない事故につながります。また、作業中のピン装填、調整及びピンづまりを直すとき、誤ってピンを発射するおそれがあり、危険です。

落下やそれに類する衝撃を機械本体に与えた場合、安全装置等が正常に作動する事を確認してから作業を再開する（11ページ参照）。異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス（株）にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

次のときは、本機を使用しない。事故の原因になります。

- ・疲れているとき、身体が不調などとき。
- ・酒類や薬物を飲んで正常な動作ができないとき。

用途にあつた作業に使用する。

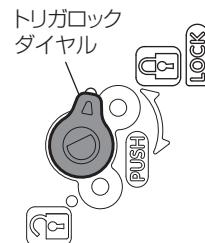
本機は板金もしくは合板等の木材の軽量形鋼（2.3～3.2mm）へのピン打ち作業を目的とした工具です。指定された用途以外には使用しないでください。

子供を近づけない。

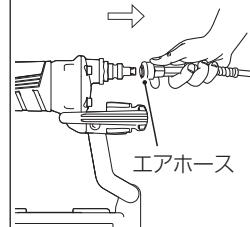
作業者以外、ピン打機やエアホースに触れさせないでください。作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

移動するとき  
作業を中断するとき

### ● トリガをロックする



### ● エアホースを外す



## 作業後

## ⚠ 警告

作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には必ずピンを抜き取る。

ピンをマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながることがあります。

ピン打機は注意深く手入れをする。

安全に能率よく作業していただくために、ピン打機は常に手入れをし、清潔に保ってください（25ページ参照）。付属品のお手入れは、取扱説明書に従ってください。

使用しない場合はきちんと保管する。

乾燥した場所で、子供の手の届かない高いところ、または鍵のかかるところに保管してください。

# ⚠ 安全作業のために

## 屋外作業について

### ⚠ 警告

#### 足場の安全性を充分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、ピン打作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

#### エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。



#### 直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

### 打ち方

#### 水平面のピン打ち

前進姿勢でピン打作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。



#### 垂直面のピン打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へピン打作業を行ってください。



#### 傾斜面のピン打ち

下から上に向かって前進姿勢でピン打作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。



# ⚠ 安全装置について

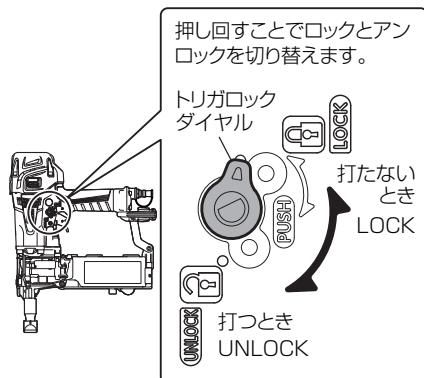
ピン打作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

## ●トリガロック装置

本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに使用者の意志によってトリガをロック（引けないように固定）することにより作動できないようにする装置です。

ピン打作業を行う際はトリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK（アンロック）の位置にセットしてから作業を開始してください。

ピンを打っているとき以外はトリガロックダイヤルを押し回し、LOCK（ロック）の位置にセットしエアホースをはずしてください。

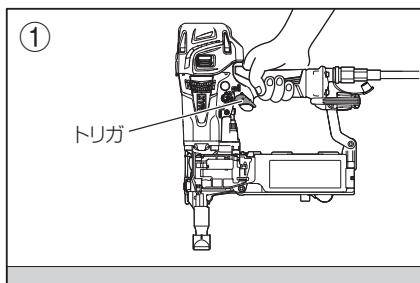


## ●メカニカル安全装置

これはコンタクトアームとトリガが同時に作動しないと発射しないメカニズムです。

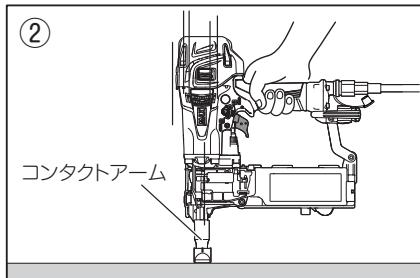
つまり、

- ①トリガを引いただけではピンは発射しません。



- ②コンタクトアームを打込対象物にあてただけでもピンは発射しません。

コンタクトアームを対象物に当てる動作とトリガを引くという動作が重なってはじめてピンは発射されます。



# ⚠ 安全装置について

点検により異常が発見された場合、ただちに使用を中止してください。

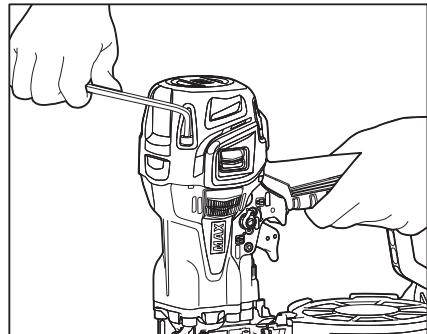
修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス(株)にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

使用前に安全装置が完全に作動するか必ず確認してください。

## 1. エアホース接続前の点検

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

- ・ボルトの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
- ・各部品が外れていたり、傷んでいないか。
- ・コンタクトアームがスムーズに動くか。
- ・トリガをロック(引けないように固定)できるか。



不完全なまま使うと、事故や破損の原因となりますので絶対に使用しないでください。

## 2. エアホース接続時の点検

エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはピンを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

- ・エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
- ・エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

### 3. 安全装置の点検

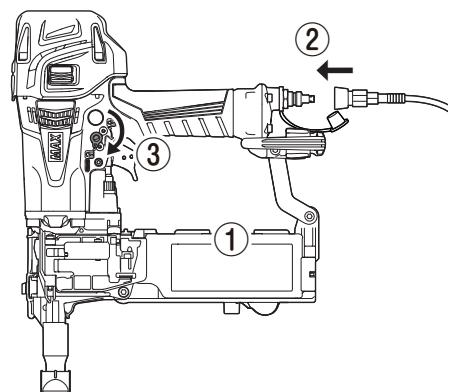
ピンを打つ作業に入る前に安全装置に異常がないかを下記の手順で確認してください。

- ①作業に入る前に本機にピンが装填されていないことを確認してください。

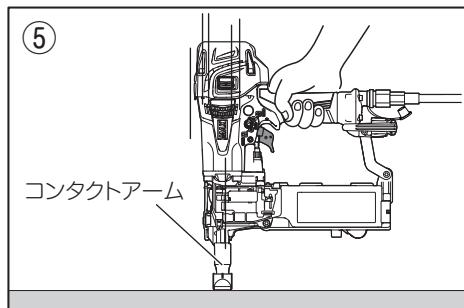
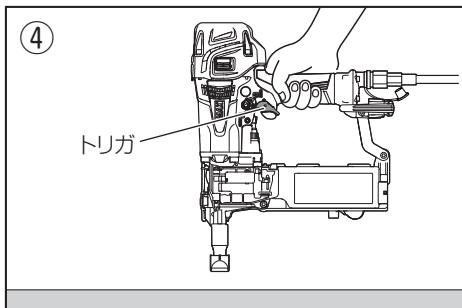
- ②本機にエアホースを接続します。

- ③トリガロックダイアルを押し回し、UNLOCK(アンロック)の位置にセットしてください。

- ④まず、トリガだけ引いてください。



- ⑤次にトリガから指を離し、コンタクトアームを材料に押しあててください。



このとき、本機が作動する場合は安全装置が異常です。

そのまま使うと、事故や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

# 仕様及び付属品

商 品 名	マックスねじピン打機スーパーねイラ
商 品 記 号	HN-40SP1
寸 法	(H)332×(W)132×(L)279mm
質 量	2.8kg
ピ ン 装 填 数	100本(1巻)
使 用 空 気 圧 範 囲	1.2～2.3MPa(約12～23kgf/cm <sup>2</sup> )
使 用 エアコンプレッサ	マックススーパーエア・コンプレッサシリーズ
使 用 エアホース	マックススーパーエア・ホースシリーズ(ホース内径5mm以上)
使 用 オイル	タービン油2種ISO VG32(JIS K 2213)
安 全 装 置	メカニカル方式、トリガロック装置
付 属 品	キャリングケース、保護メガネ、油さし、マガジンネイルサポート(白、赤)、コントクトトップ14L、23L、23S、23Sスイチョク

## ⚠ 警告

- 指定ピンを必ず使用する。指定されたピンと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となります。

### 〈使用ねじピン〉

プラシート連結ねじピン				
材質	頭部形状	首下長さ (mm)	ガイド有無	商品名
ステンレス	六角頭	24	あり	SP-H3724R-S
		40		SP-H3740R-S
	平頭	24		SP-F3724R-S
		40		SP-F3740R-S
鉄	平頭	24	あり	SP-F3724R
		34		SP-F3734R
		32		SP-C3732R
	皿頭	なし	なし	SP-C3732
		あり	あり	SP-C3737R
		なし	なし	SP-C3737

# 使用方法

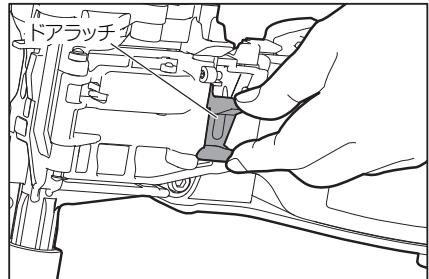
## ピンの装填方法

### ⚠ 警告

- ピンを装填するときは、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

### 手順

- ①トリガロックダイヤルを押し回し、LOCK（ロック）の位置にセットし、エアホースをはずします。
- ②ドアラッチをつまんでドアを開くとマガジンキャップが開きます。



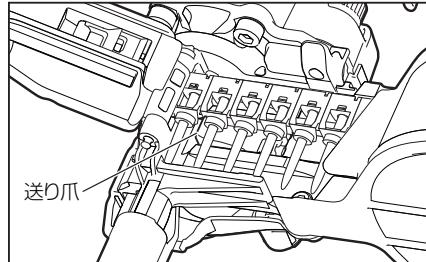
- ③装填するピンの長さに合わせて、以下の表の通りに、マガジン内にネイルサポートをセットしてください。

ピン長さ	24mm	32~37mm	40mm
ネイルサポート	ネイルサポート 白 (出荷時セット品)	ネイルサポート 赤 (付属品)	ネイルサポート 白 (出荷時セット品)
セットの向き	マガジン ネイルサポート白	マガジン ネイルサポート赤	マガジン ネイルサポート白

### ⚠ 注意

- 使用するネイルサポートとセットの向きが異なっていると、ピンが正常に送られずに、空打ち、ピン詰まりが起こる場合があります。

- ④ピンをマガジンに入れ、ピンを引き出し、1本目のピンを送り爪の先にセットします。
- ⑤マガジンキャップを閉じます。
- ⑥ドアとドアラッチに指をかけてドアを完全に閉めます。



## ピンの装填方法（つづき）

### ⚠ 注意

- 次のような場合にはドアがうまく閉じないことや、ピンが正常に送られずに空打ち、ピンづまりなどが起きることがあるので、修正してから所定の位置に装填してください。
  - ピンや連結シートが所定の位置入っていない場合。
  - 連結シートからピンがはずれている場合。

### ⚠ 注意

- ドアラッチが確実にかかっているか確認してください。不完全な状態だとドアが開くおそれがあります。

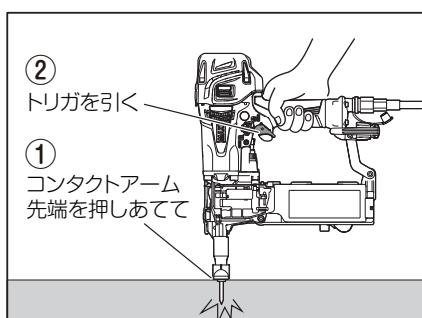
## 打ち方

本機はDSバルブ（ダブルシーケンシャルバルブ）を採用しています。DSバルブは、コンタクトアームを対象物に押し当て後、トリガを引く単発打ち専用の構造となっており、狙った場所に一発一発より一層確実に打つことができます。

### 手順

トリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK（アンロック）の位置にセットします。

①ピンを打とうとする箇所にコンタクトアーム先端をしっかりと押し当てて、



②トリガを引いてください。

※トリガを引いたままで、再度コンタクトアームを対象物に当ててもピンは発射されませんので、トリガから指をいったんはなしてから①②の操作を繰り返し行ってください。

### ⚠ 注意

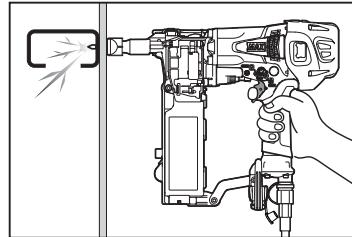
- 本体の射出口付近（アームカバーなど）に手を添えないでください。  
ピンを打ち損じた場合、思いがけない事故につながります。

## ⚠ 警告

### ●可燃物のそばで絶対に使用しない。

ピンを打ったときに、貫通した向こう側に火花が飛ぶ場合があります。

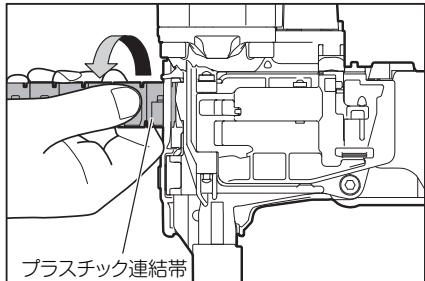
向こう側に可燃物があると、引火の原因になります。  
向こう側に可燃物や他の人がいないことを確認して作業してください。



## プラスチック連結帯の切り方

プラシート連結ピンを打つと、ノーズよりプラスチック連結帯が出てきます。

トリガをロックし、エアホースをはずし、プラシート連結帯の一番ノーズに近い位置を右図のようにつかんで、ひねるように引きちぎってください。

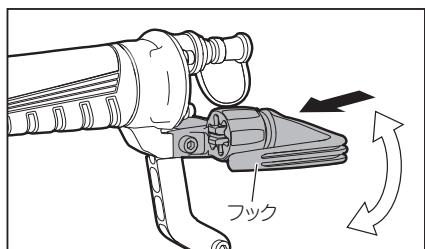


## フックの方向の変え方

フックは向きを変えることができます。

フックの向きを変えるときは、矢印 ← の方向に押しながら回してください。

フックは反対側に取り付けることができます。  
付けかえるときは、以下の手順でおこなってください。

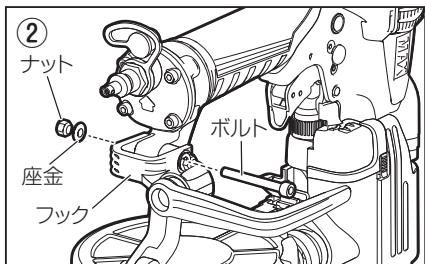
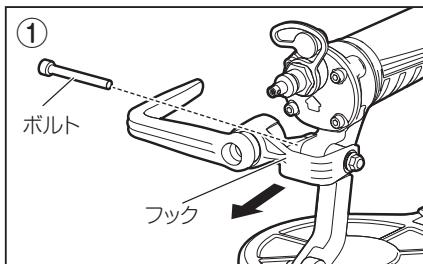


①六角棒スパナでボルトと座金をはずしフックを矢印の方向に取りはずしてください。

フックに組み付けてあるナットと座金を無くさないでください。

②フックを反対向きに組み付け、ボルトと座金で締め付けてください。

(ボルトの締め付けトルクは、2.9~4.4N·m)

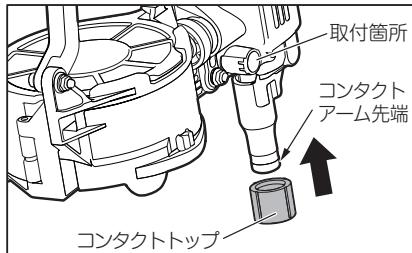


## コンタクトトップの使い方

### ！警告

- コンタクトトップ着脱の際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

仕上げ材等を打つ際、対象部材に傷をつけるおそれがある時は、同梱のコンタクトトップをコンタクトアームの先端に取付けてください。



※コンタクトトップを回しながら取り付けると、スムーズに取付けられます。

※コンタクトトップは本体のアームカバーに取付けることができます。

本機は用途に応じて3種類のコンタクトトップが使用できます。

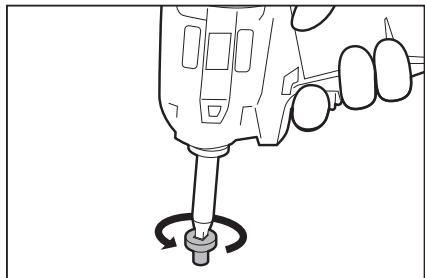
名称	コンタクトトップ 14L、23L(オレンジ)	コンタクトトップ 23S(赤)	コンタクトトップ 23Sスイチョク(赤)
形状	 14mm 23mm		
用途	通常用途 このコンタクトトップを使用して、沈み込み過ぎになる場合は、エアコンプレッサの取り出し圧力を下げて使用してください。	下材の鋼材の厚みが厚く、コンタクトトップ14L、23Lでは浮き気味になる場合	ピンが部材に対して傾かなく、まっすぐ打ちたい場合

コンタクトトップの使い分けの詳細は18ページ「ピン選定基準と打込深さ調整の目安」をご参照ください。

## 打ち込んだピンを抜きたいとき

打ち込んだねじピンをはずしたいときは  
電動ドライバ等で抜くことができます。  
電動ドライバに以下の表のビットを装着し、  
逆転方向に回転させるとはずせます。

ねじピンの頭形状	ビット
六角頭	ソケットビット 対辺6mm
平頭・皿頭	スクエアビット No.2



### ⚠ 注意

- 電動ドライバで抜く場合、いきなり強いトルクをかけると空回りして抜けなくなる場合があります。少しずつ力をかけてはずしてください。
- 打ち込み後、頭が浮き気味のねじピンに対し、増し締めはしないでください。所定の耐力が発揮できない場合があります。

# ピン選定基準と打込深さ調整の目安

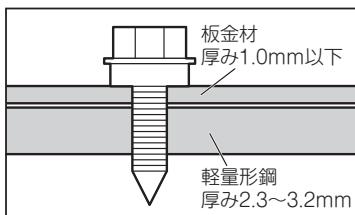
本機は2.3mm～3.2mmの軽量形鋼に使用できます。ご使用のときは部材の状況や施工条件を考慮し、施工基準書に準じてください。

- ピンは以下の内容を参考に部材厚さに応じて適切なものを選んでください。

## ⚠ 注意

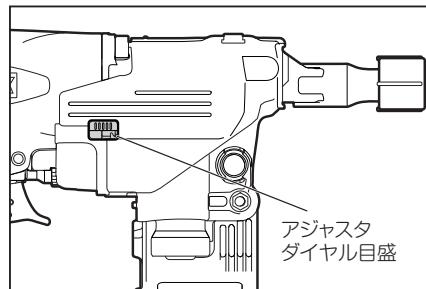
- 打ち込み部材の硬さや厚さの組み合わせによっては十分に打ち込めないことがあります。
- 上材の厚みに対して、適切な長さのピンを使用してください。ピンが長すぎても短すぎても、所定の耐力が出ない場合があります。
- 鋼板打ち作業ではメインピストンユニットが摩耗し易くなります。摩耗するとピンが正常に打ち込めない場合がありますので、新品のメインピストンユニットに交換してください。

## 板金材を軽量形鋼に留めつけるとき



### 使用ピン

頭形状	首下長さ
六角頭	24mm
平頭	24mm



※アジャスタダイヤル位置は、右図の通りダイヤル位置の目安となる目盛りがありますので、その針の位置を参考にしてください。

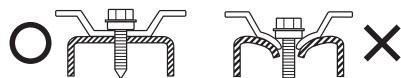
薄鋼板厚み		2.3mm以下	3.2mm
エアコンプレッサ取り出し圧		2.3MPa	2.3MPa
コンタクトトップ、アジャスタダイヤル位置	ピン頭形状	六角頭	六角頭
		コンタクトトップ 14L, 23L (オレンジ) やや沈み側	コンタクトトップ 23S, 23Sスイッチ (赤) やや浮き側
		平頭	平頭
		コンタクトトップ 14L, 23L (オレンジ) 最沈み付近	コンタクトトップ 23S, 23Sスイッチ (赤) 中央付近

●打込過ぎは極端に保持力が低下しますので、作業の際には、打込状態を十分に確認してください。

※上記の表はあくまでも目安です。

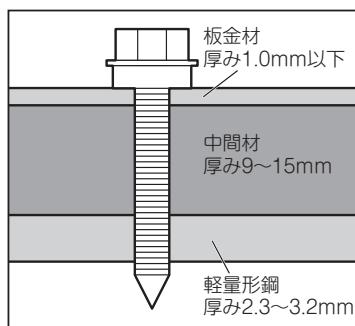
材料によって打ち込みの状態は異なりますので、「打込深さ調整の手順」(21ページ)に従って調整をしてください。

首下にガイドが適切に残っている。  
ガイドが大きくなったり、外れている。  
板金部材が変形しない。板金部材が変形。



打込みすぎ  
(アジャスタを③の方へ回す)  
調整方法は21ページ参照

## 板金材と中間材を軽量形鋼に留め付けるとき

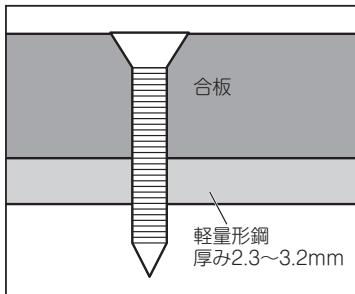


### 使用ピン

頭形状	首下長さ
六角頭	40mm
平頭	34mm、40mm

薄鋼板厚み		2.3mm以下	3.2mm	
エアコンプレッサ取り出し圧		2.3MPa	2.3MPa	
コンタクトトップ、 アジャスター ダイヤル位置	ピン頭形状	六角頭	コンタクトトップ 14L、23L (オレンジ) やや沈み側	コンタクトトップ 23S、23Sスイチヨク (赤) やや浮き側
		平頭	コンタクトトップ 14L、23L (オレンジ) 最沈み付近	コンタクトトップ 23S、23Sスイチヨク (赤) 中央付近

## 木材・合板を軽量形鋼に留め付けるとき



使用ピン

合板・木材厚み	頭形状	全長
12mm	皿頭	32mm
18mm		37mm

薄鋼板厚み	2.3mm以下		3.2mm
エアコンプレッサ取り出し圧	2.3MPa		2.3MPa
コンタクトトップ、 アジャスター ダイヤル位置	ピン頭形状	皿頭	



コンタクトトップ  
なし



中央付近



コンタクトトップ  
なし

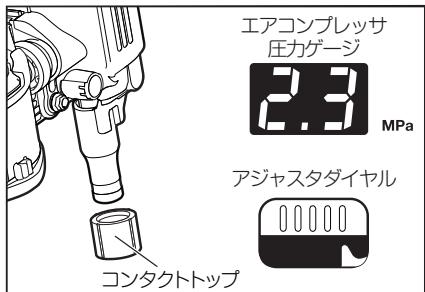


最沈み付近

# 打込状態の確認と打込深さ調整の手順

## 手順

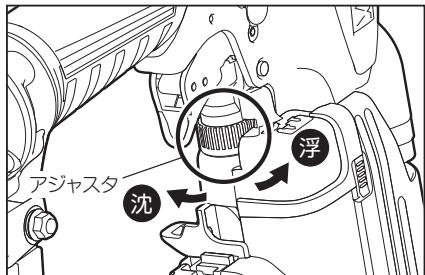
①「ピン選定基準と打込深さ調整の目安」(18~20ページ) の表に従ってコンプレッサの取り出し圧を合わせ、適切なコンタクトトップを装着してください。



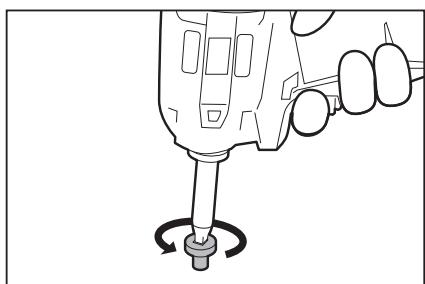
②アジャスタのダイヤルは上記の表よりも少し浮き方向に調節してください。

③試し打ちをして、ピンの頭の浮き具合を見てアジャスタを回し調整してください。

※アジャスタを1回転させると約1mm上下します。



④浮き気味になったねじピンは電動ドライバ等で抜き、市販のねじで締めなおしてください。



## ⚠ 注意

●打ち込み後、頭が浮き気味のねじピンに対し、増し締めはしないでください。所定の耐力が発揮できない場合があります。

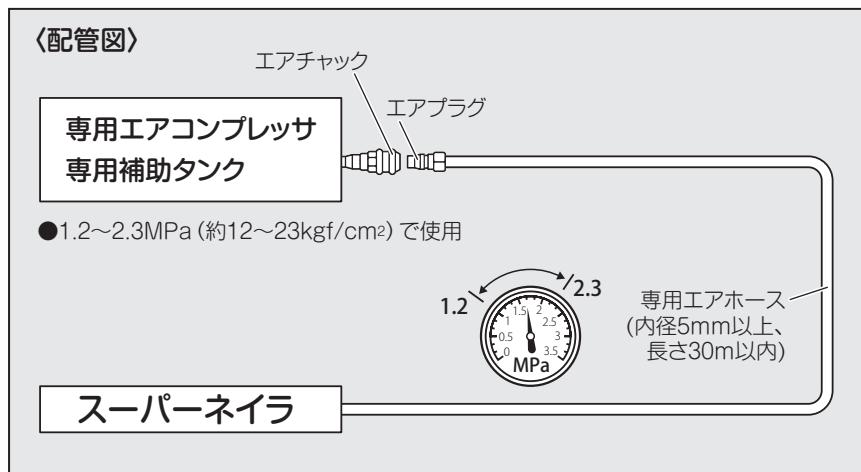
⑤沈み込み気味になる場合は、まずはアジャスタを浮き方向に調節してください。最浮きでも沈み込み過ぎになる場合は、コンタクトトップ23S（赤）を装着している場合は、コンタクトトップ14L、23L（オレンジ）に付け替えてください。それでも沈み込み過ぎになる場合はコンプレッサの取り出し圧を下げてください。

●エアコンプレッサの取り出し圧は高めの状態で打ち込んだ方が打ち込みの仕上がりが安定します。沈み込み過ぎになる場合は、まず先にアジャスタやコンタクトトップで調整をして、それでも効果がない場合にエア圧を下げるようにしてください。

# 配管についての注意

## !**警告**

- 本機使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。本機は、使用性能を向上させるため、使用圧力を従来のピン打機より高く設定しております。使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。また、本機、専用エアコンプレッサ、専用エアホースとも、エアプラグ、エアチャックが専用のものとなっており市販の物とは互換性がありませんので、他の機器との接続はできない仕様になっております。改造・加工等して他の機器を使えるように絶対にしないでください。
- 動力源は必ずマックス専用エアコンプレッサを使用してください。  
高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）等は絶対に使わないでください。
- 接続するエアホースもマックス専用工アホースを使用してください。



# エアホースの接続

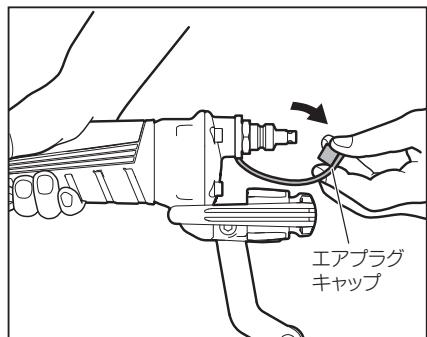
## ⚠ 警告

- エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを厳守する。
  - ・トリガをロック（引けないよう固定）する。
  - ・コンタクトアームに触れない。
  - ・コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
  - ・射出口を人体に向けない。

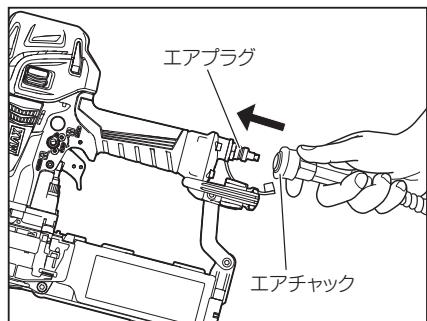
### 手順

トリガロックを押し回し、LOCK（ロック）の位置にセットします。

- ① エアプラグからエアプラグキャップをはずします。



- ② エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。



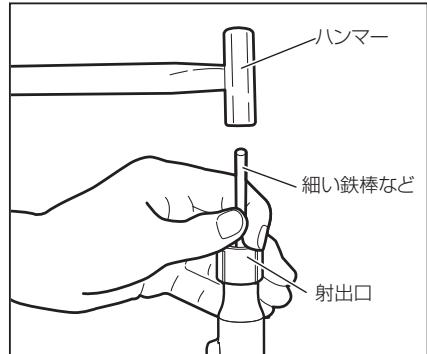
# ピンづまりの直し方

## ！警告

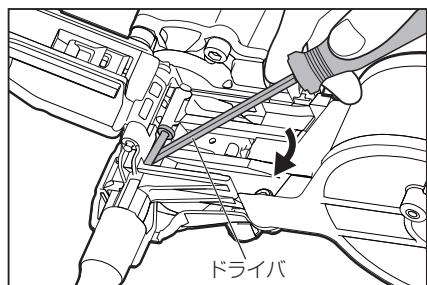
- ピンづまりを直す時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

### 手順

- ①トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ②ドアを開き、ピンをマガジン内より抜き取ります。
- ③射出口に細い鉄棒（長さ15cm程度、ピンの頭径位のもの：釘締め、ピンポンチなど）を入れ、ハンマーでたたきます。  
※ハンマーでたたく際は、本機を傷つけない  
ようご注意ください。



- ④ノーズまたはコンタクトアーム内部につまつたピンをマイナスドライバなどで取り除きます。
- ⑤ピンを送り爪に再度確実にセットして、ドアを閉じます。



## ！注意

- ピンづまりやピンの座屈が発生した際、コンタクトアーム内部にピンの破片が残っている場合があります。故障や事故の原因となりますので必ず取り除いてください。

# 保守・点検

## 本機を大切に使う

落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。



## 繰り返しカラ打ちをしない

ピンを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

## 指定オイルを注油する

オイルはタービン油2種 ISO VG32 (JIS K 2213) を必ずお使いください。使用前にエアプラグの口より穴からあふれる程度、注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。



## エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときは、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアプラグにキャップを装着してください。



## エアコンプレッサのタンク、補助タンクの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンクに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

## 定期的に清掃する

本機の性能を維持するために清掃を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス(株)にお申しつけください。

## 清掃方法

- 砂やゴミがついたらエアダスターで飛ばしてください。
- トリガの裏もエアダスターで飛ばしてください。
- 布できれいに拭いてください。

## 射出口(コンタクトノーズ)の点検

トリガをロックし、エアホースを外した状態で射出口(コンタクトノーズ)がスムーズに動くか確認してください。射出口(コンタクトノーズ)の可動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより、スムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。

## ピストンOリングの点検

ピストンOリングは、消耗品です。ドライバがズレズレと落ちてきたり、お買い求めの販売店、又はマックスエンジニアリングサービス(株)にお申しつけください。

## カラ打ち時の確認

作業中に本機は作動するがピンが実際に打ち込まれない場合には、下記の事を点検してください。

- ①ピンが送り爪にきちんとセットされているか。
- ②コンプレッサの圧力が適正にセットされているか。
- ③ピンがマガジン内でからまっているか。
- ④ネイルサポートの高さがピンの長さに合わせて適正に調整されているか。

上記①②③④を確認してもカラ打ちが直らない場合には、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス(株)にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

# 保守・点検（つづき）

## 作業後の保管

※作業後はピンを全部抜き取ってください。

※エアプラグにエアプラグキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- ・作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、エアプラグキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。
- ・長期間使用しない場合は、さび防止のため、エアプラグから給油し、2,3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
- ・鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
- ・油は、付属の油をご使用ください。
- ・お子様の手の届かない、乾燥した場所に保管してください。

## 保証、アフターサービスについて

### 保証について

●本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。

●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●本機の基本保証期間はお買い上げ日より1年間です。

「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

### アフターサービスについて

●本機の調子が悪いときは、使用を中止して、お買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス株にご相談ください。

●保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。

※本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

# memo

●マックスお客様ご相談ダイヤル

月～金曜日(祝日・当社指定休日を除く)

0120-228-358

『ナンバーディスプレイ』を利用しています。

## マックス株式会社

### ●販売拠点等

札幌支店	〒060-0041	北海道札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011)261-7141
仙台支店	〒984-0015	宮城県仙台市若林区卸町5-3-4	TEL (022)236-4121
盛岡営業所	〒020-0824	岩手県盛岡市東安庭2-10-7	TEL (019)621-3541
東京支店	〒103-8502	東京都中央区日本橋崎町6-6	TEL (03)3669-8118
埼玉営業所	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL (048)651-5346
横浜営業所	〒241-0822	神奈川県横浜市旭区さちが丘7-6	TEL (045)364-5661
新潟営業所	〒955-0081	新潟県三条市東裏館2-14-28	TEL (026)34-2112
多摩営業所	〒190-0022	東京都立川市錦町5-17-19	TEL (042)528-3051
群馬営業所	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL (027)353-7075
長野営業所	〒399-0033	長野県松本市笠賀8155	TEL (0263)26-4377
東関東営業所	〒300-0811	茨城県土浦市上高津915-1	TEL (029)835-7322
名古屋支店	〒462-0819	愛知県名古屋市北区平安2-4-87	TEL (052)918-8621
静岡営業所	〒420-0067	静岡県静岡市葵区幸町29-1	TEL (054)205-3535
金沢営業所	〒921-8061	石川県金沢市森戸2-15	TEL (076)240-1871
大阪阪支店	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川1-3-18	TEL (06)6444-2078
京滋営業所	〒612-8414	京都府京都市伏見区竹田段川原町195	TEL (075)645-5061
岡山営業所	〒700-0971	岡山県岡山市北区野田3-23-28	TEL (086)246-9516
四国営業所	〒761-8056	香川県高松市上天神町761-3	TEL (087)866-5599
松山営業所	〒790-0036	愛媛県松山市小栗6-1-22第1白石ビル1F	TEL (089)913-1893
沖縄営業所	〒901-2132	沖縄県浦添市伊祖2-17-1	TEL (098)875-3577
広島支店	〒733-0035	広島県広島市西区南観音7-11-24	TEL (082)291-6331
福岡支店	〒812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL (092)411-5416
九州営業所	〒891-0115	鹿児島県鹿児島市東開町3-24	TEL (099)269-5347

### ●マックスエンジニアリングサービス(株)

本社・高崎サービスステーション	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL(027)350-7820
札幌サービスステーション	〒060-0041	北海道札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)231-6487
仙台サービスステーション	〒984-0015	宮城県仙台市若林区卸町5-3-4	TEL(022)237-0778
埼玉サービスステーション	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)667-6448
名古屋サービスステーション	〒462-0819	愛知県名古屋市北区平安2-4-87	TEL(052)918-8624
大阪サービスステーション	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6444-2089
広島サービスステーション	〒733-0035	広島県広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-5670
福岡サービスステーション	〒812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)451-6430

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。



4103676  
251202-00/07

### 便利メモ

お名前	商品名 HN-40SP1
お買い上げ年 月 日	製造番号
販売店名	□